

グローバル BCP 研究会 2010 年度 第 2 回会合 (議事録)

1. 会合概要

- (1) 開催日時：2010 年 9 月 22 日(水) 16:00~17:30
- (2) 場所 所在地：東京都中央区日本橋本町 4 丁目 3-4 東海日本橋ビル
会場名：BCAO 東京オペレーション事務所会議室
- (3) 今回の議長役：原田泉
- (4) 議事録作成者：上田悦久
- (5) 今回の幹事：原田泉
- (6) 出席者：以下 X チェックの 7 名 (会員 12 名)
欠席者：以下 5 名

メンバー(X=出席)		メンバー(X=出席)		オブザーバー など	
1.座長 原田泉	<input checked="" type="checkbox"/>	11.菅谷 豊	<input checked="" type="checkbox"/>	理事長 丸谷様	<input type="checkbox"/>
2.副座長 白澤健志	<input checked="" type="checkbox"/>	12.皆川	<input type="checkbox"/>	事務局長 細坪様	<input type="checkbox"/>
3.上田 悦久	<input checked="" type="checkbox"/>	13.	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
4.大木 幸久	<input type="checkbox"/>	14.	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
5.金井 正弘	<input checked="" type="checkbox"/>	15.	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
6.小山 和博	<input checked="" type="checkbox"/>	16.	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
7.佐久間 勇児	<input type="checkbox"/>	17.	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
8.佐々木 忍	<input checked="" type="checkbox"/>	18.	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
9.志方 宣之	<input type="checkbox"/>	19.	<input type="checkbox"/>	出欠 ON/OFF は右クリック、プロパティ の既定値の設定で	
10.篠原 秀一	<input type="checkbox"/>	20.	<input type="checkbox"/>		

- (7) 主要な決定事項
 - ① 予定：3 回テーマ 中国の事情 (小山氏発表)
 - ② 予定：4 回テーマ 時差と言語の課題 (討議)
- (8) 次回開催予定
 - ① 開催日時：2010 年 10 月 20 日(水)16:00~17:30
 - ② 場所 所在地：東京都中央区日本橋本町 4 丁目 3-4 東海日本橋ビル
会場名：BCAO 東京オペレーション事務所会議室
- (9) 配布資料
 - ① NEC グローバル BCM 討議資料 (NEC 佐々木様提供)
 - ② タイ・バンコクにおける反政府デモの教訓

2. 議事内容

A: 事例報告 佐々木様

NEC の事例を中心に佐々木様の多数のコンサル経験を加味して、グローバル BCP の状況について報告をいただいた。(以下の概要は NEC 社だけの見解ではない)

① NECにおけるBCP策定の経緯の説明

- 2005年国内での構築から、2009年の新型インフルエンザ対策を経て、自然災害のグローバルBCP策定までの流れ、2010からの本格化（規模：110カ国、200社超）
- 現地担当者への研修用のDVDの作成（担当者は、現地人・赴任者など、兼任が多い）
- 外資系企業からのヒアリング（実態調査を実施。外資とは、米欧を中心）

② JOC（Japan Oriented Company）の現状

- 各国でのディザスタースターの大きな違いを考慮した策定が必要
- JOC（一般論として日本本社企業の意味としてNEC内で使う）は、外資に比べてかなり遅れているとの認識
- 国内の基準をそのまま海外に適用する場合の困難性
- 国際的には、ここ数年大きな事件が発生している
- BCPの精度は、日系は詳細で品質は高いと思われるが、外資は粗い内容が多いと見える。しかし、実効性では外資がすばやい（例：2009年新型インフルエンザの対応では、5月時点で弱毒として特に対応しないという結論を出していた、など）
- 外資と日系では、ガバナンスに大きな差異があるようだ
- 外資では、監査・訓練・マネジメントの対応・定着化、などが進んでいる
- 外資では歴史的な経緯もあり、リスクマネジメントの考え方がしっかりしている、ポリシーがしっかりしている、などの差異が見られる

③ JOCの課題

- ガバナンスの構築が必要であるが、方法を編み出す必要がある
- 各国担当者とのコミュニケーション方法は、言語の問題と方法など、課題が多い。
- 各国の進捗や定着化には、コミュニケーションが重要であると認識しているが課題が多く、困難性が残る
- BCMナレッジは、現地職員の転職の高さなど、継続性に課題がある
- 現地担当者の反応の鈍さも課題（兼任では、本気になれない）

B:事例 討議

- グローバルBCPの導入はトップの判断が必要
- 外部コンサルタントの活用
- 人事と権限の現地法人への裁量の拡大
- JOCは、結果の検証から教訓とナレッジとして蓄積しない。2009年新型インフルエンザは絶好の機会だったが、活用されていない
- 危機管理担当者のリスク分析能力が重要だが、その教育は容易ではない
- 社内の事業によって（社会機能維持関係など）、経験値が異なる
- 導入の理由は、サプライチェーンや顧客からの要望が発端になっていることが多い
- ガバナンスでの課題は、現地語で作られたBCPの評価が困難
- 標準化の考え方は、すでに定着している外資では、今更認証を受ける価値を見出していない。
- 既存のISOなどの標準と違い、BCMでの取得の価値を見出せていない場合が散見される

以上